



目黒区美術館 開館30周年記念

日本パステル畫事始め

武内鶴之助と矢崎千代二、二人の先駆者を中心に
Beginnings of Japanese Pastel Drawings:
featuring TAKEUCHI Tsurunosuke & YAZAKI Chiyoji as forerunners

2017.10.14.sat ▶ 11.26.sun

目黒区美術館 Meguro Museum of Art, Tokyo
東京都目黒区目黒2-4-36 | tel.03-3714-1201 | www.mmat.jp

開館時間：午前10時—午後6時[入館は午後5時30分まで] 月曜休館
観覧料：一般1000[800]円 | 高大生・65歳以上800[600]円 | 小中生以下無料

観覧料の[]内は20名以上の団体料金、障がいのある方は半額・その付添者1名は無料
目黒区美術館では、開館30周年を記念して区民割引を実施しています。目黒区内在住、在勤、在学の方は
受付で証明書類をご提示いただくと、団体割引料金になります(他の割引との併用はできません)。

30th
Anniversary
目黒区美術館
MEGURO MUSEUM OF ART

日本パステル畫事始め

武内鶴之助と矢崎千代二、二人の先駆者を中心に

会期：2017年10月14日〔土〕—11月26日〔日〕

開館時間：午前10時—午後6時〔入館は午後5時30分まで〕

月曜休館

観覧料：一般1000〔800〕円 |

高生・65歳以上800〔600〕円 | 小中生以下無料

〔〕内は20名以上の団体料金、障がいのある方は半額・その付添者1名は無料。

目黒区美術館では、開館30周年を記念して区民割引を実施しています。目黒区内在住、在勤、在学の方は受付で証明書類をご提示いただくと、団体料金になります（他の割引との併用はできません）。

主催：公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館 | 読売新聞社 | 美術館連絡協議会

協賛：ライオン | 大日本印刷 | 損保ジャパン日本興亜 | 日本テレビ放送網 | サッポロホールディングス株式会社

関連催事

● 学芸員によるギャラリートーク

10/28〔土〕 14:00-15:00

11/11〔土〕 14:00-15:00

● 大人のための美術カフェ

11/18〔土〕 14:00-15:00

この他、講演会、パステル体験などを予定しています。詳細は目黒区美術館のウェブサイトをご覧ください。

会期中展示替えをします。

- p 矢崎千代二《残照 印度ダージリン》1920年頃 星野画廊蔵
- a 武内鶴之助《伊豆福浦海岸》1932年 静岡県立美術館蔵
- s 武内鶴之助《英国風景》1909-12年頃 静岡県立美術館蔵
- f 矢崎千代二《紅海の夕雲》1922年 星野画廊蔵
- e 矢崎千代二《印度》1920年 横須賀美術館蔵
- l 武内鶴之助《稲妻》制作年不詳 目黒区美術館蔵

- 1 エドガー・ドガ《踊りの稽古場にて》1884年頃 ポーラ美術館蔵
- 2 オディロン・ロンドン《丸い光の中の子供》1900年頃 新潟市美術館蔵
- 3 ゴンドラパステル（王冠化学工業所製）

*上記作品の描画素材はすべてパステル・紙です



目黒区美術館 Meguro Museum of Art, Tokyo

153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36 | tel.03-3714-1201 |

www.mmat.jp | mmatoffice@mmat.jp

メルマガ会員募集 <https://service.sugumail.com/mmat/>

Beginnings of Japanese Pastel Drawings:

featuring TAKEUCHI Tsurunosuke & YAZAKI Chiyoji as forerunners

日本人とパステルの出会いは、「洋画」が広く知られるようになった明治期に遡ります。しかし、その魅力や可能性は、まだまだ多くの人に知られていないといえないでしょう。

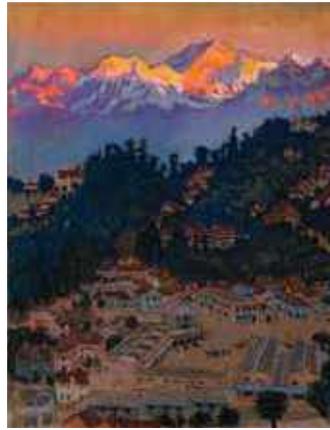
「顔料」を主体に練り、チョークのような棒状に固めたパステルは、いわば「色彩そのもの」。直接的で鮮やかな発色が魅力です。そして乾燥時間を必要としない「速写性」もパステルならではのものです。

そのパステルをとことん追求して使いこなし二人の日本人画家がいました。

武内鶴之助(1881-1948)と矢崎千代二(1872-1947)です。留学先のイギリスでパステルと出会った武内は、やがて微妙な色彩や陰影の美しさ、多彩な表現の可能性に魅せられ、帰国後は生涯を通じて探求を続けました。東京美術学校卒業後に渡ったアメリカでパステルを知った矢崎はパステルを専門とし、速写性を生かして中国やインド、ヨーロッパ、南米など世界各地の情景を活写しました。作風も生き方も異なる二人ですが、昭和期には、ともにパステルの普及のために尽力しています。

そして、二人の画家が次々にパステル作品を生み出していた頃、大正期の終わりには、京都である試みが進められていました。それまで、輸入品しかなかったパステルの国産化です。矢崎も深く関わったこの試みは、今日まで続くゴンドラパステルとして結実しました。

この展覧会は、二人の優れた画家、そしてパステルの国産化を中心に、日本人にも馴染み深いドガやロンドンの作品などをあわせ、日本人が見出したパステルの魅力と可能性をご覧ください。展覧会です。



p



a



s



f



e



l



1



2



3